

彩の歳時記

平成二十三年 四月

花は盛りに 月は隈なきをのみ 見るものは 雨にむかひて 月を恋ひ 垂れこめて 春の

ゆくえ知らぬも なほあはれに情深し

徒然草 一三七段 兼好法師【1283~1350】



「桜の花は、さかりだけを見るものではないし、月も曇りなく照り渡っているものだけ見るものでもない。雨の中で月を想い、すだれを下げて春の行方を知らないのもまた、趣あるものだ」

不完全なものに美しさを見出す日本的感性を表現した一節。「不足・余白」に物の本質を見出す感性は「茶の湯」の「わび・さび」に影響を与えるなど、芸術作品にも多く反映されています。「不足」を楽しんだ古人に想いを馳せ、それぞれの中に美を見出して行きたいものです。

四月の異称

卯月【うづき】 卯の花(初夏の頃、白い五弁の花をつける)の咲く月。

四月の暦

一日 エイプリルフル（四月馬鹿）日本では古来より、日ごろの不義理を詫げる日。

二日

連翹忌

詩人・彫刻家、高村光太郎【1883~1956】の忌日。連翹は



生前、彼が好んだ花で棺の上に一枝が置かれていた事に因む。『道程』の一節は特に有名で、何も無い所に自分が生きていく中での不安や迷いを持ちながらも前を見て、進んでゆかなければならない遠い道のりへの祈りが感じられ、今も愛唱されている。

僕の前に道はない
僕の後ろに道は出来る
ああ、自然よ 父よ
僕を一人立ちにさせた
広大な父よ
僕から目を離さないで
守る事をせよ
常に父の気魄を
僕に充たせよ
この遠い道程のため
この遠い道程のため

五日

清明【二十四節気】桜など草木の花が咲き始め、万物に清朗の気が溢れて来る頃

八日

灌仏会(花供養・花祭) 仏教の開祖・釈迦【BC463~383c】の誕生日とされる日。



立像に甘茶をそそぐ儀式は、釈迦誕生時に八王竜王が喜びのあまり甘露の雨を降らせたという言い伝えに因る。

十三日

啄木忌

望郷と漂泊の天才詩人、石川啄木【1886~1912】の忌日。没後九十九年の今年、

故郷岩手県盛岡市は大きな災害に襲われた。教員生活を送った函館に記念館、文京区小石川に終焉地の碑。歌集に『一握の砂』『悲しき玩具』



何となく今朝は少しくわが心 明るきとし 手の爪を切る

十五日

東京デイズニールランド開園の日 1983年(昭和58年)のこの日、千葉県浦安市にオープン。以来二十七年間操業してきたが、東日本大震災で初めて長期休業に。



二十日

穀雨【二十四節気】 雨が降って百穀を潤す。

二十九日

昭和の日 もとは昭和天皇誕生日だったが、昭和64年(1989)、天皇の崩御により平成元年(1989)から「みどりの日」となるが、平成十七年の「国民の祝日に関する法律」改正を受け、平成十九年に昭和の日に。

四月の歌

アンパンマンマーチ 唄 ドリーミング

詞 やなせたかし【1919~】 曲 三木たかし【1945~2009】

何日も災害情報を流すラジオが、久々に音楽を取り戻した時、この曲がみんなを勇気づけ、大きな反響があったことで「震災救助活動応援歌」として救助活動をしている人達に捧げる歌になっている。作詞の「やなせたかし」から被災者へのメッセージ↓



今を生きることで熱い ころろ燃える
だから君は行くんだ ほほえんで
そうだ 恐れなくてみんなのために
愛と勇気だけがともだちさ
そうだ 恐れなくてみんなのために
愛と勇気だけが友達さ
時ははやく過ぎる 光る星は消える
だから君は行くんだ ほほえんで
そうだ 恐れなくてみんなのために
たとえどんな敵が相手でも 後略